



## 横浜さかえ内科通信

### 新しい肺炎球菌ワクチンのご紹介

肺炎は日本人の死因の第5位を占める重要な疾患であり、その約95%が65歳以上の高齢者で発症しています。なかでも肺炎の原因菌として最も多いのが「肺炎球菌」です。2025年10月末から、この肺炎球菌による感染症を予防する新しいワクチン「キャップバックス」の接種が開始され、当院でも取り扱いを始めましたのでご紹介します。

#### ■肺炎球菌とは

肺炎球菌は、鼻やのどに常在する細菌の一種です。通常は病気を引き起こしませんが、免疫力が低下した際に増殖し、肺炎の原因となることがあります。なかでも注意が必要なのが、肺炎だけでなく敗血症や

髄膜炎など、命に関わる合併症を引き起こす「侵襲性肺炎球菌感染症」です。65歳以上の高齢者や、心臓病・糖尿病・慢性肺疾患・腎臓病などの基礎疾患をお持ちの方は、発症リスクが高いことが知られています。

#### ■キャップバックスワクチンの特徴

肺炎球菌には約100種類「血清型」が存在し、ワクチンが予防できる範囲は、そのカバーする血清型の種類と数によって異なります。「キャップバックス」は、成人の肺炎球菌感染症予防に特化して開発された21価肺炎球菌結合型ワクチンです。これは、従来のワクチンでは対応できなかった新しい血清型を含むため、侵襲性肺炎球菌感染症の原因として報告されている血清型の約80%をカバーしています。

ます（左図参照。ちなみに、ニューモバックスのカバー率は57%です）。また、従来公費で接種されてきたニューモバックスと比較して、より強く、長期的に持続する免疫が得られるとされています。ニューモバックスでは約5年ごとの再接種が推奨されていましたが、キャップバックスは原則として1回の接種で完了します。

侵襲性肺炎球菌感染症の原因となった血清型分布と各ワクチンが対応する血清型

